

3 魅力ある都心づくりに向けての提言

都心ビルの再建を促進していくためには、以上のような短期的観点からの取り組みに加え、将来に向けて都心の魅力向上に取り組んでいくことも重要である。

神戸市復興計画においては、都心は広域都市圏の発展の核となる中心拠点として一層の魅力化、機能の強化を図り、同時に、非常時には広域の防災中枢拠点として機能するものと位置づけられている。

都心の魅力向上のためには、震災の経験を生かし災害に強い都心を形成するとともに、「神戸国際マルチメディア文化都市（KIMEC）構想」のもとに形成される高度な情報通信基盤を活用しうる環境を整備していくことが重要である。また、それぞれの地区の個性を生かしつつ、多様な機能が複合した生活空間として都心を再生していくことは、就業者や来街者にとっての魅力向上にとどまらず、新たな経済活動の創造に結びつく大きな可能性を秘めているといえる。

このようなことを踏まえ、魅力ある都心づくりに向けて中長期的な観点から以下の提言を行う。

7) 文化的な都市魅力の向上

文化的な都市魅力は、市民生活の質を高めるという観点のみならず、新たな経済活動と結びつく大きな可能性を有するという点で産業経済を活性化していくという観点からも大きな意味をもっている。このため、芸術・文化の拠点となる施設を整備するとともに、神戸らしい街並みを再生・創造することなどにより、街としての文化的魅力を高めていくことが必要である。

【背景・目的】

- 多彩な都市活動の場として都心の文化的な都市魅力を高めていくことは、市民生活のみならず、産業経済の活性化にとっても大きな意味をもつ。
- 高度情報化の進展の一方で、集客の拠点としての都心の役割は一層重要となりつつあり、都心にはこれを象徴する機能を配置していく必要がある。今後の都市経済は、集客という、より局地性に根ざした活動との関連性を強めるという側面があり、経済活動とは無縁にみえる文化施設の背後に新たな経済活動と結びつく大きな可能性を有している。都心は、このような新たな結び付きを促す器・装置として再生される必要がある。
- このような観点から、芸術・文化の拠点施設の整備は、成長が期待される生活文化や情報通信に関わる産業などとの直接的な関わりのほか、今後の産業経済の活性化にとって幅広い意味をもつものである。
- 多くの企業が神戸の都心の復興にとって都市景観の再生・創造が重要だと認識しており、

また、震災復興計画において、観光・コンベンション都市づくりを一体的に進める集客都市づくりが産業復興の重要な柱として位置づけられていることから、神戸らしい街並み・景観がもつ文化的な都市魅力の一層の向上に資するようにビルの再建を行っていくことが重要である。

[内容]

- 芸術・文化の拠点となる施設を人々が利用しやすい立地に整備するとともに、神戸らしい街並みを再生・創造することにより、街としての文化的魅力を高めていくことが重要である。
- 都心ビル再建にあたっては、歩行者ネットワークに面する低層部はギャラリー、ショールーム、ショーウインドーなど、市民に開かれ親しまれる空間とするとともに、それぞれの地区の個性を生かした魅力ある街並みが形成されるよう配慮する。

8) 長距離バスターミナルの整備

三宮は鉄道の結節点であり交通ターミナルとして機能しているが、今後、明石海峡大橋の開通による四国等との交流の活発化をにらみ、三宮駅前広場及びその周辺の整備にあたって、長距離バスネットワークの拠点となるターミナルを整備することが求められる。

[背景・目的]

- 三宮は鉄道の結節点であり交通ターミナルとして機能しているが、都市間移動の多様性を確保するとともに、幅広い時間帯での移動というビジネスマン等の利便性の向上を図る観点から、長距離バス交通の役割は大きいものと考えられる。
- 明石海峡大橋開通による効果を生かし、神戸都心が四国等との交流拠点となることは、商圏の拡大など神戸の産業経済の活性化に寄与するものである。

[内容]

- 三宮駅前広場及びその周辺の整備にあたっては、三宮駅及び歩行者ネットワークと連携しうる立地に長距離バスターミナルを整備することが求められる。
- 神戸都心が、明石海峡大橋の開通に伴い整備される四国との長距離バスネットワークの拠点となるよう、長距離バス路線を整備することが重要である。

9) 快適な都心空間の形成

(1) 歩行者ネットワークの形成

都市の魅力、価値は快適で機能的な歩行者ネットワークの整備によって創出され、さらに、多重のネットワークの形成により安全性も確保される。このような歩行者ネットワークの整備には公共の支援が不可欠である。

[背景・目的]

- 都市の魅力を最も有効に実感する方法は歩くことである。働く人にとっても、訪れる人にとっても、整備された歩行者空間は必要不可欠である。
- 人の移動が快適で容易になると多様な交流が生まれ、情報の交換の場となる。多彩な情報は新たな創造を促す刺激となり、“情報の発信”という都市の魅力を形成する。
- 様々な災害時においても有効な避難及び救援路を整備することが重要であり、フェイルセーフの考え方により、複数の異なる条件のルートを設定し、どのような事態においても最低限のルートを確保することが必要である。

[内容]

- 都心ビル再建にあたっては、地上において魅力ある歩行者空間を形成するとともに、地下、デッキにおいてもネットワークが可能な施設計画とする。
- そのため、三層ネットワークを基本に、地区（数街区程度）単位でのネットワーク整備の計画を公民共同して作成するとともに、公道部分や地下通路部分の整備のみならず、民間部分における接続部の整備費用については適切な公的負担がなされることが必要である。
- ネットワークの整備にあたっては、その特性に応じて地区ごとに地下またはデッキの整備優先順位を明らかにし、重点的に整備することにより、地下またはデッキどちらかのネットワークの早期形成を図ることが現実的である。

(2) 水と緑のネットワークの形成

水と緑の導入は都市にやすらぎとうるおいを与えるとともに、自然との共生、サステイナブルシティには欠くことのできない現代のテーマである。さらに、非常時の機能を日常的な利用の中に潜在化させることで、災害時には消火用水や避難路として機能し、防災面からも有効に利用されるように計画することが求められる。

このような水と緑のネットワークの形成については、公共性が強いことから公的な誘導、支援等が必要である。

[背景・目的]

- 都市の中の緑は平常時には多様な生物を育み、ゆとりとうるおいのある美しい環境を形成し、自然と共生した都市の魅力を形成する。非常時には延焼遮断帯であり、避難・救援路となるなど、防災インフラとして機能するよう計画されることが求められる。
- 河川等の親水空間は平常時には都市に多彩な表情を与えるアメニティ空間であるが、水道が寸断された非常時には、貴重な消防用水、生活水の確保の場となる。日常から水と親しむことができるように配慮し、非常時においても円滑に利用できるように整備することが必要である。

[内容]

- 都市災害に対し、神戸の都市構造を活かし海と山への分かりやすく安全な防災インフラとなる水と緑のネットワークを形成する。さらに、水と緑のネットワークは、アメニティ空間として街並みの形成と一体的に整備することが必要である。
- 街路樹の防災面からみた計画的な配置、緑道の避難経路としての位置づけが必要である。
- 親水空間の防災面からみた計画的な配置、有効利用方策の検討が必要である。
- これら水と緑のネットワークの整備を進めていくために、助成制度の確立、税制上の優遇措置、維持管理への助成等の支援が必要である。

10) 新しい都市基盤の形成と活用

都市の魅力づけとして、人、物、情報の交流のための新たな都市基盤の整備は不可欠であり、特に情報と物流システムの基盤整備が重要である。

今後、大都市部においてこのような都市基盤の機能を更新していくことが国際社会の中で生き残るには必須の要件であり、そのための公的な誘導及び支援が必要である。

[背景・目的]

- 新たな都市基盤として、より高度な情報通信システムは都市間の国際競争において不可欠であり、都市の機能面において大きな魅力となる。
- 情報通信などの新しい高次都市基盤の整備を支援する制度はあるが、新規の大規模地域開発を想定したものであり、現行では神戸都心復興への適用は困難である。
- 一方、都心における物流はその高密度な集積ゆえに慢性的な交通渋滞等を引き起こしており、新たなシステムの導入・サービス動線網の整備等により、安全、快適であり、同時に、非常時への備えともなる機能的な都市空間の形成が求められる。
- 都心の機能更新と高度化は、今後、全国の都市において進めていく必要があり、神戸都心の課題は一般性を有するものである。その観点から、神戸都心においても、全体的な計画のもとに、支援制度の適用等を検討する必要がある。

[内容]

- 情報通信基盤等新しい都市基盤を整備するとともに、それを活用し、同時に支える都心ビルを建設することが必要である。（KIMEC構想との連携）
- 物流を支える都市基盤としては、新たな物流のシステムの導入、地下でのサービス動線の接続等の検討が求められる。
- このような新しい都市基盤の整備にあわせて、個々の都心ビルの機能の高度化があわせて図られる必要があり、全体の誘導と支援が必要である。

11) 災害に強い都心の形成

災害に強いシンプルな施設やシステムを高度化した都市の中にもち続け、さらに個々の対応だけでなく地域全体での防災力を強化することにより、安全であることの経済的、社会的評価を確立しうるよう誘導、支援していくことが必要である。また、災害等の非常時に対応できる

人材の育成を図り、地区全体を担当する公民一体となった防災マネジメント体制を整備していくことが求められる。

[背景・目的]

- 災害は都市化の二乗に比例するといわれるように、高度に都市化した現在の都市は災害に対して脆弱な面をもっている。一部には非常にシンプルな構造で、被害を受けても容易に修復可能なシステムをもつことが有効である。
- 全ての建築物を完璧なまでに耐震化することは経済的に非現実的である。このため、既存の設備・施設等の有効利用等により防災力を強化する現実的な方策を検討することが必要である。
- 地区全体での防災力を高め、トータルのコストダウンを図ることが必要である。
- 非常時に最も柔軟に多様な対応ができるのは、いかなる設備でもなく、人間である。災害に強い都市とは、人々がその街を守ろうとし、日常の維持管理から改善等ができる街であり、また、そのような人材を育成できる都市である。

[内容]

- 都市構造の防災強化、防災拠点の整備、地区防災施設の整備等は公共が中心となって推進することが必要であるが、あわせて、これらと連携した民間の取り組みに対する公的な誘導、支援等を行うことが求められる。
- 井戸の飲料用又は消火用としての利用等、自然と共生した災害に強いシンプルな施設等を日常から利用されるように整備することが必要である。
- 空調用蓄熱槽の消火用水としての利用、流通市場の在庫の備蓄物資としての利用等、平常時の施設、システムの有効利用方策の検討及び民間での設置等に対する公的な誘導、支援が必要である。
- 安全を得るための費用については、保険料の低減や、税制上の優遇措置、その他の方策を検討し、事業者の負担を軽減する等の誘導方策をとることが必要である。
- 地区防災施設や、中小ビルにおける自家発電・防災倉庫等の共同化、災害時等の非常時に対応できる人材の育成等に対して、地区全体をトータルにまとめる防災マネジメント体制の構築が必要である。

12) 新たな企業の立地促進

都心ビルの再建にあたっては、需要を従来の市内既存テナントに限定する発想から、新たな需要を喚起し地域外のテナントの誘致を図るといった積極的な発想への転換が求められる。

そのためには、規制緩和やインセンティブの付与、ビジネスサポート体制の拡充等により、外資系企業を含む外部の企業にとっても、魅力あるビジネス環境を整備していくことが重要である。

[背景・目的]

- 都心ビルの再建の前提となるテナント誘致については、新たな需要を喚起し、活力ある企業を積極的に誘致することが必要である。神戸がもつ国際性を生かし、外資系企業の立地を促進していくことも重要である。
- 新たな企業活動が活発に行われるよう産業活動に係る規制緩和を行い、外資系企業を含む企業の投資・立地や新産業の創造を促す魅力あるビジネス環境を整備していくことは、神戸の産業経済復興を牽引する重要な要素であるとともに、わが国経済構造の変革を先導するモデルとしての役割を果たすものでもある。

[内容]

- 外資系企業等の企業のニーズに応じて、適切な情報の提供をはじめ、土地・建物に対する多様な事業手法（受け入れ体制）の整備、立地に対するインセンティブ等の付与、わが国での事業活動に対するビジネスサポート、生活環境の整備等、広範囲にわたる立地環境を総合的に整備していくことが必要である。
また、外国人にとっても活動しやすい環境づくりのため、公共的空間や街角のサインをわかりやすいものとするなど身近な取り組みも必要である。
- 都市が24時間活動しうる、あるいは、新しい発想による事業活動がより自由に行えるなど、魅力ある事業環境を形成しうるよう規制緩和やインセンティブの付与等について、地元が一体となって検討し、国に対して要請していくことが必要である。